

# 「夏の甲子園キャッチフレーズコンクール」グランプリ受賞!!



©MIYAZAKI DAIICHI  
Unauthorized reproduction prohibited

2018  
March

1

新聞掲載

ひと

夏の甲子園のキャッチフレーズコンクールでグランプリ

やたに めい さん(17)  
屋谷 明唯



「本気の夏、100回目。」  
第100回記念大会となる今夏の甲子園のキャッチフレーズ募集で、グランプリに選ばれた。宮崎第一高校(宮崎市)の2年生。「とんでもないことになったぞ」と先生から告げられ、はじめは怒られると思った。「まさか! 10分もかけなかったのに」応募は実は、現代文の授業の課題だった。2013年夏、初めて甲子園で観戦した記憶を呼び起こして考えた。宮崎代表で準優勝した延岡学園の付属中1年生。汗を流す選手、1球1球に歓声を上げ、ため息を漏らすアルプス。「テレビで編集された場面を見ると、風景が全然違った」1試合1試合、1年1年……。

積み重なった重みを表現する言葉はすぐに浮かんだ。「本気、だ」小学校の先生を目指しながら、寮生活を送る。ある日、実家の母、徳美さん(57)からファクスが入った。「熱々の送ったけん」。翌日届いた段ボールの中には、大好きな塩パンが入っていた。冷たくなっていたが、できたてを食べさせようとしてくれた母の思いに胸が熱くなった。

「球児が『周りの人のために頑張る』って言うのは、こういう気持ちなんだろうな」夏は受験勉強のヤマ場だが、「甲子園に行って刺激を受けたいな」と思う。「あの熱気がもう一段、自分の本気を引き出してくれる気がする」 文写真 松本真弥

今夏開催の第100回全国高校野球選手権記念大会(夏の甲子園)キャッチフレーズコンクールに全国の高校生から1万1565点の応募があった中、最優秀賞であるグランプリに本校文理科2年・屋谷明唯さん(尚学館中学校出身)の「**本気の夏、100回目。**」が選ばれました。

<本人のコメント>

受賞の連絡を受けた時は「本当ですか?」と言った後はずっと立ちすくんだままで信じられませんでした。何かのドッキリかと思いました(笑)。でも、先生や友達に「おめでとう」と声をかけてもらって、だんだん実感がわいてきました。記念すべき100回大会のキャッチフレーズに選ばれて光栄です。嬉しいです。

屋谷さんの作品は今後、紙面・テレビ・ラジオなどでの使用が予定されています。